

県会議員 奥村のり子の
しんぶん 赤旗読者ニュース

2013年11月10日 第107号
——奥村のり子生活相談所——
〒640-8212 和歌山市杉ノ馬場1-11
☎ & FAX 073-427-7121



暴走つづく安倍政権に怒り 今こそ語り、手をつなぐときです

12月3日から定例議会がはじまりま
す。この開会日当日、国体の気運を盛り
上げて行くために県歌を歌おうとなり
ました。そして、それなら「国歌」も歌お
うとすすめられています。がこれについて
は日本共産党県議団は賛同していません。
安倍政権は、日本版NSC設置法
案、集団的自衛権の行使、消費税の大増
税と社会保障改悪、環太平洋連携協定の
交渉推進、原発再稼働、米軍基地強化な
ど暴走に暴走を重ねています。
国民に消費税を押し付ける一方で大
企業には東日本大震災の復興のための特
別法人税さえ廃止する大企業優遇政治
は絶対許せません。国会では日本共産党は
悪政と正面から対決しています。
今こそ、地域から、職場から平和民主
義生活向上を願うすべての人と手をつな
ぎ力を合わせて行く時です。12日火曜日
には午後2時から奥村生活相談所において
「こい」を開催致します。県政への「要望
もお聞かせ下さい。お待ちしております。」
今、私は紀の川市議選の応援に何度も駆
けつけています。先日、地域訪問で、昔JA
や住友金属に勤めていたと言った方が、私
は50年前から共産党一筋に応援してき
た。誰にも頼まれなかつたけど」と言われ大
変感動しました。紀の川市にお知り合いの
ある方はよろしくお願いします。(のり子)

社会保障プログラム法案って？ 「自助・自立」口実に制度破壊

次々と暴走法案を提出する安倍政権。今度は衆
院で審議入りした「社会保障制度改革プログラム
法案」です。厚労大臣が「持続可能な社会保障制度
の確立」といっては、テレビはその部分を強調す
るから「良い法案か？」と思われれるかも……。
だが、「しんぶん赤旗」は、「社会保障解体の促進
法」と志位委員長が断罪。国民を「自助・自立」に
駆り立てる体制こそ国が講ずべき政策と想定し、
医療介護年金福祉の全分野にわたる給付削減
を打ち出し、その実施スケジュールを明記」と強
く反対」を表明。例えば介護では要支援者を保険
給付から外す（→5年4月）、医療では70～74
歳の患者負担を1割から2割へ倍増（→4年）、病
床削減で患者追い出し（→7年度までに実施）、年
金の25%の削減（→3年～15年）など、いつまで
に何を解体するかを決める法案です。

憲法25条は、国に対して社会保障の向上及び
増進に努めなければならない」と義務化している
のにまるで逆さです。消費税は上げても社会保
障に回らず、大型公共事業や大企業優遇ばかり。
低所得の高齢者、年金生活者や貧困層の悲痛な叫
びを中けら同様に無視する暴走です。編集室

のり子の週間日誌

(主なもの)

- 11月 8日 市駅前朝宣伝 市年金者組合女性
部総会
- 9日 介護シンポジウム
- 10日 紀の川市議選応援(告示日)
- 11日 西ブロック後援会バスツアー
- 12日 つどい(奥村生活相談所)
- 13日 合同法律事務所記念事業
- 14日 無料生活相談日

農業振興条例

10月中旬、市議会常任委員会の
各市の農業振興について視察した。
視察先は九州です。和歌山市は農
業を「基幹産業」と位置づけをして
いますが、それに相応しい施策が見
えてきません。党議員団が提案し実
現した「生産緑地制度」、農機具購
入時の利息補助、JAの育苗施設支
援などが主なものです。新規就農者
支援もされていますが、国、県施策の
枠内となっており、市の独自施策が
見えてきません。

いま、安倍内閣がTPPへの参加
を前提に協議が進められています。
和歌山市議会、県議会とも「TPP」
への参加反対の意見書を採択し、J
A和歌山、医師会なども反対を表明
しているにもかかわらず、参加の方
向を決定しようとしています。
とりわけ和歌山市は県内では最

党市議会議員
渡辺 忠広

九州の農業支援策視察、条例制定へ努力したい

出張した九州の都市では、農業振
興条例」を制定し、農業支援が行われ
ている実態を視察してきました。新
規就農者支援への市独自に経済的支
援、既存の生産物への支援と同時に
「特産品」の農業生産物の発掘、試み
を支援しています。ハト麦、種なし富
有柿、新種茶栽培等々とバイオマス
を活用した農業生産の拡大支援策な
ごです。



「生産緑地指定」
農地の標柱

和歌山市も「基幹産業」の位置づけ
に相応しい農業支援策を図るために
「農業振興条例」を制定し農業の維
持、発展施策を提案したい。

緊急100円 パンフ完成!

国民の目・耳・口ふさぐ
これが
秘密保護法

危険な内容ズバリ説明
緊急に大いに普及し
ましょう。
ご注文は、日本共産党北部
地区委員会(☎432-622
2)へどうぞ。